

第六回 (株) 有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 14 年 7 月 24 日 11：00～

開催場所：(株) 有線ブロードネットワークス本社 13F  
プレゼンテーションルーム

出席者 委員：小林亜星、大島綾子、有馬祐行、池田憲一、山本武司、渡辺英夫（順不同・敬称略）

放送局側：8 名

議事内容

1. 会社動向及び報告事項

- 2002 年 7 月現在において、CS デジタル音楽放送「SOUND PLANET」の認知度の拡大、加入件数の増加が順調に推移している。
- 従来のケーブルを使った音楽放送から CS デジタル音楽放送への転換を促進している。
- 中高年世代向け番組における制作状況についての動向。（下記番組審議項参照）

2. 番組課題

中高年向け商品の対象番組について

3. 番組審議

- 川柳、短歌、俳句を取り扱った番組を制作するにあたって、川柳、短歌、俳句はそれぞれ明確な境界線が存在する為、同じ番組で取り扱わないことによって、よりそれぞれの特徴を生かした番組が期待できる。
- I-30ch「ジャパニーズ シャンソン」については多チャンネルならではの切り口となりうるが、切り口の基準が明確でない部分が見受けられるため、その部分を明確にしたほうが良い。構成する楽曲に関しては、もう少しマニアックな楽曲を盛り込んでも良いと思う。
- 中高年世代をターゲットにクラシックの番組を制作する場合、歌詞のある番組(オペラ)と歌詞のない番組を同様に扱うべきである。また「昭和初期の名演奏家」や「クラシックにおける宗教音楽」という観点から、演奏形態にとらわれることなく番組を構成するのも良い。
- 中高年世代の原点となるアイルランド民謡やスコットランド民謡などが流れるチャンネルがあると良いと思う。中高年世代向けの番組を企画、制作する際に中高年世代の音楽の原点となり得るものは何なのか、ということをもっと研究する必要がある。例えばそのような楽曲を童謡や唱歌のチャンネルに組み込んでみてもおもしろいと思う。
- 昨今の日本のジャズ界における若年世代のバンド活動の活発化などを考えると「ジャパニーズ・ジャズ」専門のチャンネルがあっても良いのではないだろうか。
- 中高年世代に対する番組全般に関して回顧主義的な番組ばかりに偏る編成ではなく、新しい新鮮な音楽を取り扱った番組も必要である。
- バズ効果(噂などによる宣伝効果)のある番組を求める。「あの曲聴いた?」「あの番組知ってる?」といった風にロコミでその番組の認知度が広がっていくような仕掛けのある企画、制作を望む。
- J-17ch「般若心経」の番組については、実際に利用価値がある番組ではあるが、番組の捉え方、見せ方を誤ると顧客に対して失礼にあたる場合があるため注意しなければならない。
- いわゆる「ヒット曲」と呼ばれる楽曲が必ずしも心に残る曲ではない。時代背景も含め、リスナーに紹介する番組を望む。

#### 4. その他

弊社社会報誌「Music Pleasure」裏表紙に記載されている「CHANNEL PROGRAM」(番組表)が複雑で見づらい部分があるので、見せ方を工夫するなど、何らかの改善が必要である。